



戦略的なテレワーク導入のための

バーチャルオフィスツール 図解ハンドブック

presented by **シゴトバ**



はじめに

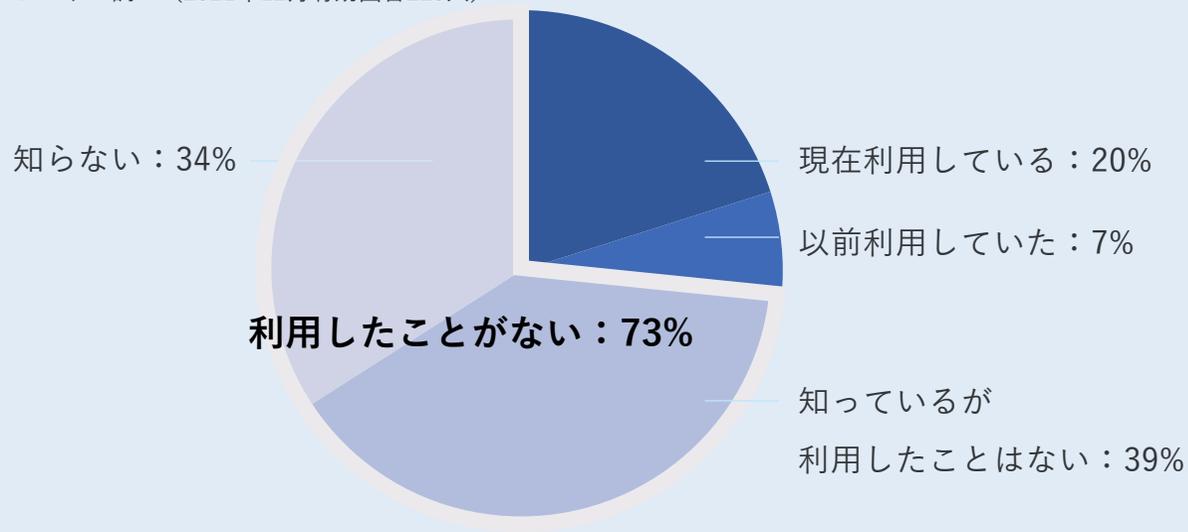
バーチャルオフィスツール（=仮想オフィス）はテレワークでもオンライン上で集まって仕事をするができる場所として近年注目が集まるクラウドサービスで、国内外でさまざまなサービスが提供されています。

コロナ禍以前に創刊した「テレワーク専門メディア『シゴトバ』（<https://shigoto-ba.com>）」では、2021年12月に行ったバーチャルオフィスツールへの意識調査から、さらなる認知度の拡大が必要であると考え、この度導入メリットや導入のためのポイントについて網羅的に情報提供を行うこととしました。

本ハンドブックの内容を転載する際は「シゴトバより（<https://shigoto-ba.com/archives/3470>）」と記載してください。

【バーチャルオフィスツールを使ったことがありますか？】

シゴトバ調べ（2021年12月有効回答229人）



目次

Contents

- 01 ニューノーマルのテレワーク動向
 - 戦略的テレワークとは
 - 「人材戦略」におけるテレワーク
- 02 テレワークにおけるコミュニケーション課題
 - テレワークで失われるリアルタイム情報の種類
 - 「テキストだけ」テレワークの危険性
- 03 バーチャルオフィスツールとは？
 - バーチャルオフィスツールとは？
 - バーチャルオフィスツールを導入するメリット
 - バーチャルオフィスツールの導入例
- 04 バーチャルオフィスツールの主な機能・種類
 - プレゼンス表示：その人の状態をどう表現するか
 - オフィスのレイアウト：空間をどう表現するか
 - 音声/ビデオ通話：どうやって話すか
 - アプリ形式：インストールが必要かどうか
 - ツールの選定

01

ニューノーマルの テレワーク動向

戦略的テレワークとは

新型コロナウイルス感染拡大対策としてBCP（Business Continuity Plan: 事業継続性計画）として広まったテレワークですが、現在は「人材確保」「多拠点経営」「オフィスコストの削減」などの経営戦略としてテレワークを導入する企業が増加しています*。

*ラウンズ社への顧客問い合わせ実績による

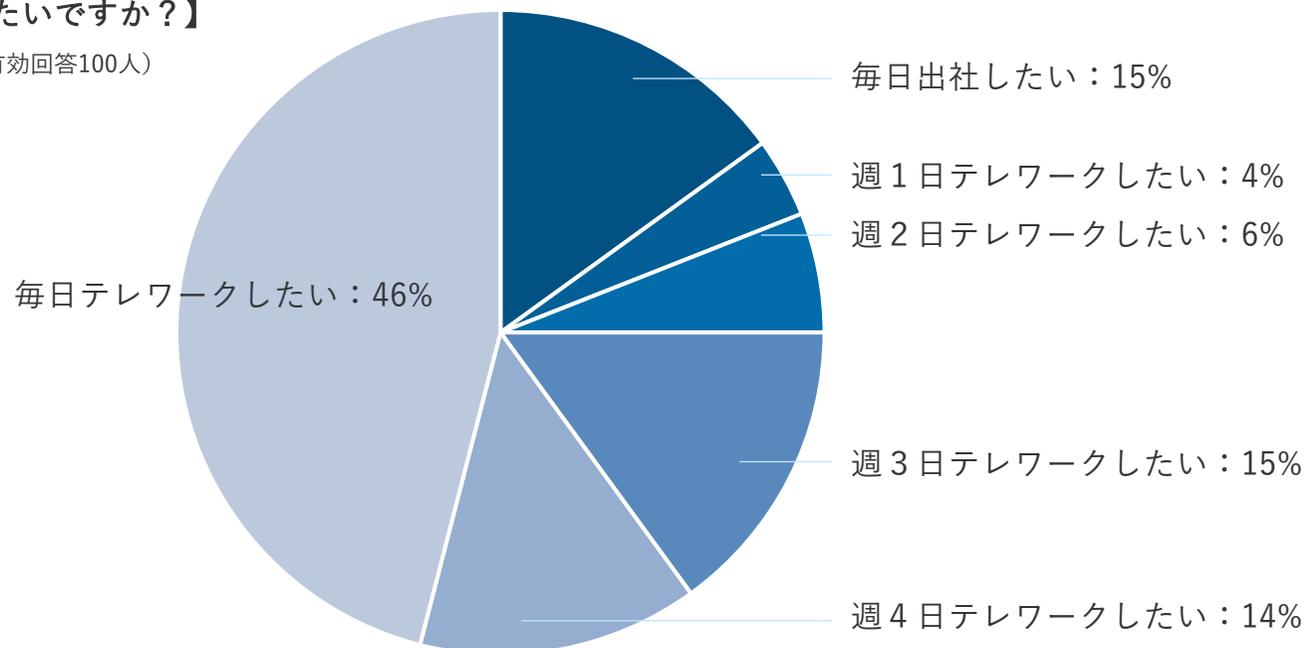
	コロナ禍以前	ニューノーマル
企業のスタンス	大企業の福利厚生的側面が強い	企業規模に寄らない経営戦略としてのテレワーク
働き方	週に1度、集中して作業したり通勤しないで体を休める日としての働き方	オフィス・リモートが混在するハイブリットワークなどの柔軟な働き方
BCP	台風や大雪などのごく短い日数のみ対応可能	感染症や大規模災害などに対応可能
人材確保	子育て世代・介護世代などの幅広い人材獲得には向かない	幅広い人材獲得が可能
オフィスコスト	削減できない	フリーアドレス制との併用により可能

「人材戦略」におけるテレワーク

日本の労働力人口は2024年から減少に転じ、40年後には4割減と予測されています(*1)。国土交通省が2021年3月に発表した調査データによると「約64%の人がテレワークに総合的に満足しており、今後も実施したい人は約82%」(*2)とあり、テレワーク実施者の満足度の高さを表しています。また、パーソルキャリアによる調査では転職希望者のうち54.5%が「テレワーク制度・環境の充実」と回答(*3)しており、テレワーク制度は企業の人材戦略における重要な鍵となっていることがわかります。

【週何日テレワークしたいですか？】

シゴトバ調べ（2021年12月有効回答100人）



※1 2017.5 みずほ総合研究所「少子高齢化で労働力人口は4割減」<https://www.mizuho-ir.co.jp/publication/mhri/research/pdf/insight/pl170531.pdf>

※2 2021.3 国土交通省「令和2年度のテレワーク人口実態調査結果」https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000072.html

※3 2021.3 パーソルキャリア株式会社「リモートワーク・テレワーク企業への転職に関する意識調査」https://www.persol-career.co.jp/pressroom/news/research/2021/20210322_01/

02

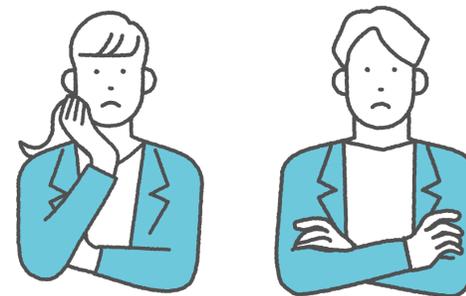
テレワークにおける コミュニケーション課題

テレワークで失われるリアルタイム情報の種類

経営戦略として注目の集まるテレワークですが、課題もあります。それは、テレワークによってリアルタイムな情報のやりとりが激減することです。

普段、私たちは同じオフィス空間で働くことでお互いに様々な情報を常にやりとりをしています。それらは「言語情報」と「非言語情報」に大きく分けられますが、テレワークになるとそれらの多くのリアルタイム情報が遮断されてしまいます。その結果、社員エンゲージメントも業務効率も低下してしまいうことが大きな課題となっています。

	手段	共有される情報	テレワークの主な課題
非言語情報	<ul style="list-style-type: none">存在そのもの顔色声色姿勢	<ul style="list-style-type: none">今どこにいるのか今何をしているのか体調感情	一緒に働く感覚を持ってないせいで 社員エンゲージメントが低下
言語情報	<ul style="list-style-type: none">朝礼挨拶会話会議	<ul style="list-style-type: none">連絡・報告事項疑問困っていること感情	相談や確認の機会が失われることで 業務効率が低下



「テキストだけ」テレワークの危険性

言語情報について、オフィスでやりとりされていた全ての情報をメールとチャットで補うことは可能でしょうか。答えは「NO」です。メール・チャットによる文字だけのテキストコミュニケーションでは、やりとりされる情報量やスピードが個人の文章スキルに大きく依存します。さらに、同じレベルの文章スキルとやりとりの背景への共通理解が書き手・読み手の双方に求められます。

また、「報告」「連絡」「指示」などの言い切り型コミュニケーションに対して「相談」「雑談」「確認」は双方向型のコミュニケーションであり、相手のクイックな相槌や返事が欠かせません。テレワーク中でも「ちょっとした会話」ができる環境を整えることは重要です。



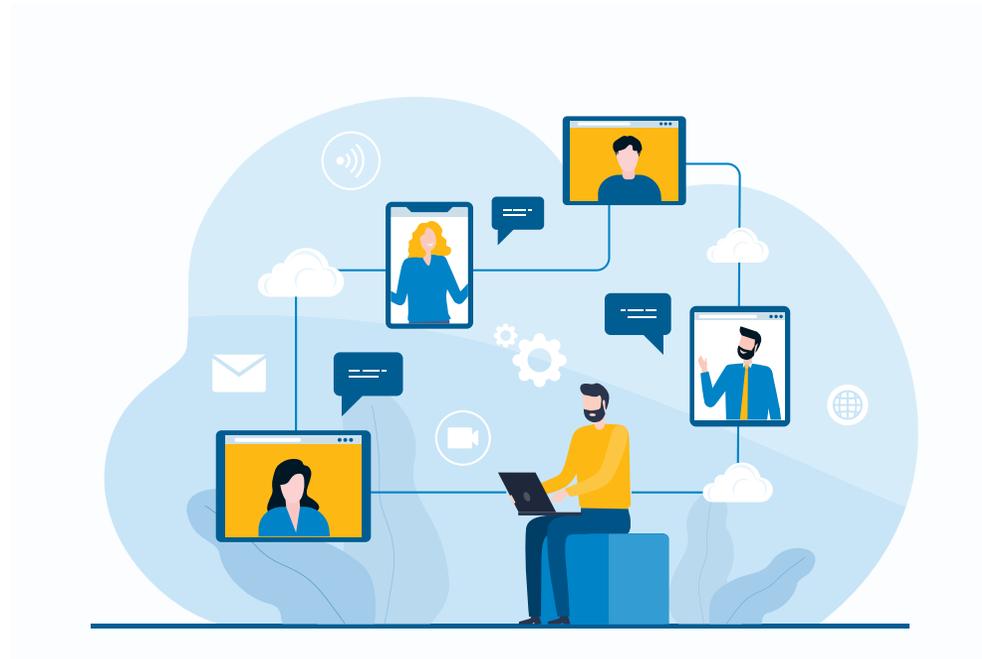
03

バーチャルオフィスツール とは？

バーチャルオフィスツールとは

バーチャルオフィスツール（=仮想オフィス）*とは「Web上に仮想的に設けられたオフィスによって互いに離れた場所にいる社員があたかも同じオフィスにいる時のような感覚で仕事できる」というコンセプトのクラウドサービスです。

* 「バーチャルオフィスツール」「仮想オフィス」同じ意味として使われます。一方、「バーチャルオフィス」は企業への物理的な住所貸しサービスの意味として使われます。英語の "virtual office" はクラウドサービス・住所貸しどちらにも使われる用語です。



バーチャルオフィスツールを導入するメリット



一緒に働く感覚をもてて、安心

リアルタイムな仲間の存在が可視化されることでチームの仲間たちが（Web上で）「となりに居る」感覚が得られます。



ちょっとした相談ができて、 ビジネススピードを落とさない

隣の席に座っている同僚に話しかける、他の人同士の会話に反応して途中参加するといった何気ないコミュニケーションが可能に。オフィスにいるときと同じような感覚で仕事を進めることができます。

バーチャルオフィスツールの導入例

バーチャルオフィスツールを実際に導入している企業の導入事例*をご紹介します。



ハイブリッドワーク

オフィス・リモート様々な場所から働く人たちが働くハイブリッドワークでは、誰がいつ働いているのか分かりづらい



「一緒に働く人の様子がわかってオフィスに集まるように働くことができるようになった」



テレワークでのOJT

新しくチームに入った人がオンラインで誰かに相談することはハードルが高い



「気軽にチームメンバーに相談しながら仕事を進められるようになった」



効率的なテレワーク

チャットのみでのテレワークだと、クイックな確認ができない



「素早く確認をとりながら仕事を進められるようになった」

* 「roundz」導入事例 (<https://roundz.jp/archives/interview/>) より

04

バーチャルオフィスツールの 主な機能・種類

バーチャルオフィスツールの主な機能・種類

現在、国内外で様々なバーチャルオフィスツールが提供されています。主な機能や種類について導入を検討する際のポイントについてご紹介します。

- 1 プレゼンス表示：その人の状態をどう表現するか
- 2 「オフィス」のレイアウト：空間をどう表現するか
- 3 音声/ビデオ通話：どうやって話すか
- 4 アプリ形式：インストールが必要か

プレゼンス表示：その人の状態をどう表現するか

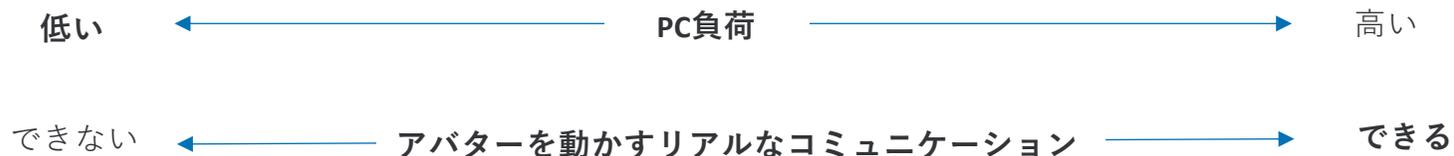
バーチャルオフィス上にその人が「いる」ことをリアルタイムに表示する機能です。「オンライン（働いている）」「オフライン（働いていない）」は多くのツールで採用されていますが、実際の状態をどの程度反映させるかやその表現方法は、ツールによって異なり、使い勝手を大きく左右します。

導入にあたっては、チームで必要とされる情報とプライバシーのバランスについてよく検討する必要があります。

	例	メリット
手動ステータス設定	<ul style="list-style-type: none">• 話せるときは「話してOK」と設定• 集中したいときは「取込中」に設定	<ul style="list-style-type: none">• 自分のタイミングで設定できる
自動ステータス検出	<ul style="list-style-type: none">• 利用しているアプリ（Zoomなど）に応じて「会議中」と表示• 利用しているアプリ名（Google Docsなど）を表示する• 2分ごとに顔写真を撮影する	<ul style="list-style-type: none">• ステータスの設定し忘れがない

「オフィス」レイアウト：空間をどう表現するか

バーチャルオフィス自体のデザインは大きくわけてシンプルタイプ/2Dタイプ/3Dタイプの3つに分類されます。画像イメージが大きいほど「歩いて話しかける」「手を振る」などの多様で楽しい表現が可能になります。一方、一般的にPC負荷も高くなってしまうため利用しているPCスペックとのバランスをよく鑑みて導入する必要があります。



音声/ビデオ通話

バーチャルオフィス上でリアルタイムにコミュニケーションを行うための機能です。Skype や LINE のように発着信をと
もなう電話タイプのもので発着信が不要で同じ部屋や選んだ人に話しかけることができる「ボイスチャット」タイプに
分かります。

また、カメラを使ったビデオ通話機能を持つものが多くある一方、精神的なハードルを下げて気軽な会話を促すために
ビデオ画面を小さくしてあまり分からないようにしたり、あえて音声のみの通話に限定しているものもあります。

ボイスチャット



オンラインの人同士が

呼び出し不要で会話できる

気軽な声かけに適している

電話タイプ



着信を許可(もしくは拒否)することで

従来の“電話”同様に会話できる

気軽な声かけには向かない



カメラの有無



有: 表情や仕草を確認しつつ**理解度の高い**
コミュニケーションがとれる

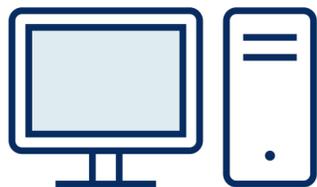
無: **身なりや背景を気にせず**いつでも
気軽にコミュニケーションがとれる

アプリ形式

デスクトップ（インストール）型とブラウザ（Web）型の2種類があります。デスクトップ型の場合パソコン起動時にONになるものが多いため、ログインし忘れを防げる一方、インストール時に手間がかかってしまいます。ブラウザ型の場合、ログインし忘れの可能性がある一方でインストール不要で手軽に使い始めることができます。

毎日使うなら

デスクトップ（インストール）型



インストールして利用するタイプ

基本的にパソコン起動時に自動でONになる

全員がテレワークではなく一部が出社する場合にも

ログインし忘れを防げるため安心

手軽に導入できる

ブラウザ（Web）型



インストールを必要とせず Webブラウザから
アクセスして利用するタイプ

使用するOSを気にせず**手軽に導入できる**

ツールの選定

【6ツールを厳選比較】テレワークで本当に使えるバーチャルオフィス（仮想オフィス）ツールとは？



具体的にツールの導入を検討される方は、シゴトバの特集記事をご覧ください。

<https://shigoto-ba.com/archives/3470>



会社名 ラウンズ株式会社 / roundz, Inc.

設立 2018年 10月29日

資本金 9,764 万円

代表者 代表取締役 合田 翔吾

住所 〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-16-6 二葉ビル3F

事業内容 テレワーク・リモートワークツール「roundz」の開発・運営
テレワーク・リモートワークメディア「シゴトバ」の運営

URL <https://roundz.jp/corp/>
<https://shigoto-ba.com/>



私たちは、**2018年**からテレワーク推進事業に取り組んでいる**総務省「テレワーク先駆者百選」認定企業**です

お問い合わせ先



<https://roundz.ip/corp>



info@roundz.ip